

普及現地情報

発信年月日：令和2年(2020年)12月7日
所属名：大津・南部農産普及課
番号：A20010
部門分類：170(花き)
発信者名：布施

大津市葛川地域(中山間地)での担い手支援

認定新規就農者としてN氏(41歳)が、大津市^{かつらがわかした}葛川坂下町の自作地7aと借入地4aで農業を始めたのが6年前のこと。葛川地域は坂下町を含め8集落ありますが、総人口237人、過疎化と獣害が多発する中山間地域です。

8月の当情報で、リンドウ栽培に取り組んでおられることを発信しましたがその他にも、大津市が栽培推進を図っている近江かぶらをはじめ、食用ホオズキ、クレソン、ホースラディッシュ(セイヨウワサビ)等、特色のある品目も栽培されています。

その目的は、夏冷涼な気象条件を活かし他の農業者が栽培していないものを生産することで収益を上げ、さらに移住希望者にアピールができれば過疎化に歯止めがかかるのではとの思いからです。

しかしこれらの品目は、市内の飲食店、数軒からの単発的な注文や、直売所では1日に2~3袋しか売れないのが現状で、馴染みがないことから安定的な販売には程遠いという問題がありました。

そこで当課が、安定的な販売先として(株)滋賀びわ湖青果の意見を聞くことを提案し、10月23日に訪問しました。

当日は食用ホオズキ、クレソンを持参され、当課から現地の気象や農地、獣害の現状を説明後、野菜部長、野菜部主任、販売促進部主任の方々との意見交換を行いました。

「大量に消費されないこれらの品目も仲卸を通じ販路(県内の料理店等)を開拓することは十分可能であること」、「クレソンは透明のビニル袋に単に詰めるだけでなく、長さを揃え、変色した葉は取り除き、葉色が映える黄色のテープで結束するなど買い手に魅せる工夫が必要であること」などのアドバイスをいただきました。

野菜部長からは、徳島県上勝町の「(株)いろどり」の葉っぱビジネスの事例を紹介いただくとともに、大津市産の野菜や果樹はまだまだ取扱量を増やしたいので、もっと生産拡大を図ってほしいと激励を受けました。



訪問した1週間後に野菜部主任が現地を視察され、N氏から栽培品目の詳しい説明を受けられました(左写真)。

次作の作付けについて、仲卸の意見を把握した上で各品目の面積配分を考えると、パッケージについては当地の自然環境を想像できる様な工夫をすることなど、2時間にわたってアドバイスを受けました。

卸売市場の訪問は初めてであったN氏も、多くの改善点が見いだせ、営農意欲を高める機会とすることができました。

(写真左手がN氏、当地での近江蕪の品質を説明)